



START 事業の背景

1週間以上必要な 義歯製作期間を短縮

通常、歯科医療の流れとしては、虫歯等の処置をし、義歯を装着する土台を形成。それをもとに歯科技工士が人工の歯を製作する。そのため、最低でも1週間以上の製作期間が必要であった。顧客の「義歯の製作期間を短縮して欲しい」といった要望を叶えるため、ものづくり補助金を活用し、加工機や3Dプリンタ、スキャナー等のデジタル機器を購入。また、出産後、通勤が困難になった女性歯科技工士に働きやすい環境を提供できないかと考えた結果、各事業所で仕事を請け負う「ママさんラボ」を構想した。



ACTION 取組の内容

退職した女性に仕事を外注する ママさんラボ「シンワスイッチ」

デジタル機器の導入したことで、「ママさんラボ」への外注が容易となり、納期の短縮に成功した。歯科医院から歯型が送られて来たら、デジタルスキャナーでデータを作成し3Dプリンタを使って歯型を製作。「ママさんラボ」との共同作業を取り入れることで効率化に成功。歯科医院への義歯の完成納期が2日程度短縮し、患者の要望に応えることができた。「ママさんラボ」として引き受けてくれる女性歯科技工士からも家事育児の両立が可能となり、やりがいのある仕事できると好評だ。



ABOUT 私たちについて

信頼と実績で評価の高い 歯科技工所

入れ歯や差し歯、インプラント義歯などを製作する歯科技工所。1957（昭和32）年に石澤技工所として創業。その後、共同経営で会社を設立。個人で運営することが多い歯科技工業界の中で組織化を進めた。金属アレルギーの可能性が低く、体に優しい素材として注目されるインプラントの新素材「ジルコニア」の導入など最先端の技術を取り入れ、300以上の県内外のお客様から信頼を得ている。産休育休制度や時間短縮正社員制度など働きやすい環境づくりにも力を入れている。



FUTURE 今後の展開

デジタル進化と技術力の高さに 海外へ進出

今後は海外へも販路を広げていきたいと考えている。世界的に見ると、アメリカの市場が大きいと言える。日本の歯科技工士は、技術力の高さに注目を集めており、特に丁寧で繊細な作業が必要な歯科技工業界に於いては、日本人が持つ技術への関心が高い。2019年10月にはワシントン大学での講演も実施。

講演後の質問も多く、アメリカの歯科医師の反応も好印象だった。これを契機に大学や医療関係者などアカデミックな側面から繋がりを作り、歯科技工技術の最先端を担う日本の一企業としてアメリカでの取引もできるような体制を作っていきたい。

他社の成功事例も少ない中、新たな技術を開発できたのは、ものづくり補助金のおかげ。きっかけをくれた制度でした。



代表取締役
石澤 亮一氏

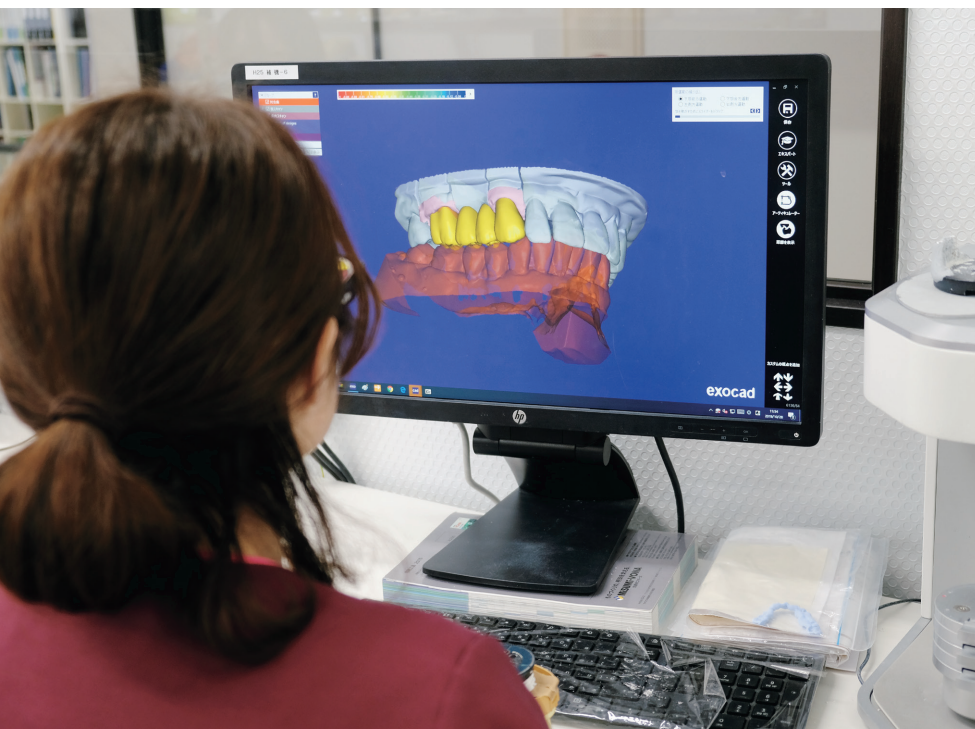
CASE

13

平成28年度

株式会社シンワ歯研

女性の離職が多い歯科技工業界で 社員の働きやすさに注力



Info

■ 医療業

株式会社シンワ歯研

住 所	新潟県新潟市西区的場流通1丁目3-17
T E L	025-268-7505
U R L	http://www.shinwa-shiken.co.jp



会社 HP